

ちよつとしい話

～ 手 ～

22年8月1日

「目は口ほどに物を言い」と申しますし、「口は禍わざわいの門」とも言い、直接声を出す口には余程気を付けて話をしないと災いを招くことがあります。一度発した言葉は取り返しがつきません。ご存じのように状況に応じ、目の表情を以って相手に伝えなければ成らない時も多々あります。それでは手は如何でしょうか、手と言う言葉がどのような場面や状況に使われているか、少し考えてみました。忙しくて手が足りなく成れば役に立たないネコの手でも借りたくなるようです。思いますに手は善き事にも悪しき事にもその動作を表しています。過去を振り返って見ますと、大東亜戦争を経験された方は手に手に国旗をもって兵隊さんを送り出した挙句あげくの無条件降伏を思い出される事でしょう。深手を負った悲惨な敗戦、締結ていけつの為に手を打ち、手を結んだのです。体験された方々は敗戦後の復興にも手放てばなしで喜べないでしょう。それは手塩てなに掛けて育てた子こ等が犠牲になったからです。悲惨な生活に手を取り合って助け合いながら戦後を生き抜いてこられた方々も、過日、初めてサッカーの世界選手権大会で勝利を挙げた日本の選手達が、手を上げて喜ぶ姿を見て感激された事でしょう。

最近問題になっていますのが相撲協会の野球賭博とばく問題です。琴光喜関を含め多くの力士が野球賭博に手を染めていました。協会は手を出した力士達に手を焼きてまじ手感てぬるいを隠せませんでした。反社会勢力の手に落ちたのでしょうか。協会の対応が手緩てぬるいと非難されました。六道の「修羅、畜生きょうがい」の境涯てなから人間としての境涯てなに手直しが必要なのでしょうか。白鵬が優勝し名古屋場所無事終了す。

私達は何事も手を出す前に良く考えて進まなくては行けません。一つの例を挙げれば「あの手、この手」と一手先いってを考える「将棋しょうぎや囲碁いご」などを見れば分かるでしょう。人間は「オギャア」と生まれれば、手取り足取りして育ててもらい、やがて歳を取れば手を煩わづらわす身と成ります。今、手足が動くことに、感謝しながら生活をしなくてはバチがあたります。そして手は「手厚い看護」を受けて死ぬまで我々の身に付いて離れません。人間として最期は手を合わせ、合掌の姿と成り極楽へ行きましょう。

善壽界 善入院 油掛地藏尊